



淡路駅付近連続立体交差事業だより

Vol.11

～平成 26 年 6 月に出前講座・現場見学会を実施しました～



◆出前講座・現場見学会

今年も、平成 23 年度から実施している出前講座と現場見学会について、近隣の 2 校の小学生を対象に行いましたのでご報告します。

平成 26 年 6 月 16 日(月)に市立東淡路小学校の 3 年生児童(45 名)と、6 月 23 日(月)には市立西淡路小学校の 3 年生児童(36 名)を対象に、次の内容にて出前講座・現場見学会を行いました。

○出前講座・現場見学会の目的

- ・「まちづくり」に対する関心を促し、事業の目的・効果などについての理解促進
- ・事業に対する親近感の醸成
- ・工事用車両への注意喚起や踏切の安全なわたり方など安全啓発

○出前講座・現場見学会の実施内容

出前講座・現場見学会は、2 時限目～4 時限目を使って実施しました。

2 時限目は小学校の教室をお借りして、大阪市と阪急電鉄株の担当者が「淡路駅周辺で進められているまちづくり」や「高架工事の概要」などについて説明し、「踏切の安全なわたり方」などの安全啓発を行いました。

現場見学会(3～4 時限目)は、実際に工事現場へ行き、慣れないヘルメットをかぶって現場で出来上がっている高架構造物(地上約 25m、7 階相当)の上に登ってもらいました。児童達は、工事に関するクイズに答えたり、高架構造物の上から周辺の建物や自分たちが暮らす街の様子を見て、高架構造物の大きさに驚きながらも、笑顔があふれていました。

実際の工事現場を見学し、現場の工事担当者から直接説明を聞いて、事業を身近に感じてもらったのではないかと思います。

出前講座の様子



現場見学会の様子





発行 平成 26 年 7 月

発行者:大阪市建設局

淡路駅付近連続立体交差事業だより

Vol.11

～平成 26 年 6 月に出前講座・現場見学会を実施しました～



◆淡路駅～上新庄駅間で行われている工事の紹介

今回は、阪急電鉄京都線の淡路駅～上新庄駅間で行われている工事について説明します。

阪急電鉄京都線の淡路駅～上新庄駅間は、事業区間を 1～8 工区に分割した中で 5 工区になります。※1

5 工区では、現在の線路の横に高架構造物をつくる「別線(べっせん)工法」と、現在の線路の横に仮の線路を設け、それにより空いたスペースに高架構造物をつくる「仮線(かりせん)工法」を組み合わせ、高架構造物をつくっていきます。※2

仮線への切替えは、平成 25 年 9 月に上り線(京都方面行き)、平成 26 年 2 月に下り線(梅田方面行き)の切替えが完了しています。

これらにより、現在の線路の南側(現場状況写真の右側)に用地を確保し、高架構造物をつくる工事を進めています。

※1 工区分けや 5 工区の位置については「事業だより Vol.07(H25.02)」を参照してください。

※2 工法については「事業だより Vol.02(H24.01)」を参照してください。



5 工区の現場状況

○先行工事が概ね完了し、高架工事が本格化

線路の南側にあった遊歩道に埋設されていた下水管や電柱等の移設工事(先行工事)が概ね完了し、いよいよ高架工事が本格化します。

高架工事は、淡路駅付近から順次進めてきており、JRおおさか東線(城東貨物線)の北側には、右の写真(上が善隣社踏切北側より撮影、下が京都線北側より撮影)でも分かるように、高架構造物が立ちあがってきています。

現在できている部分は、中層階(上り線:京都方面行き)で、この上に上層階(下り線:梅田方面行き)をつくっていきます。この高架構造物から上新庄側についても、これから仮線への切替えにより空いたスペースへ高架構造物をつくる工事をを行います。

工事現場の周辺は、工事の進捗に伴い道路の形態が変わっているところがありますので、注意してご通行ください。



高架構造物の様子